

みつくら

令和 6年12月 15日 第424号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川 10-45-2
大瀬川振興センター 電話 45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

大瀬川の縄文土器や石器を企画展示

岩手日日新聞11月5日号に「石鳥谷の歴史脈々・遺跡の物語展・縄文から中世まで土器や石器・遺跡のモノがたり展」が11月10日まで開かれ、石鳥谷地域の大地渡遺跡（辻村吏宅付近の高速道）、大瀬川館遺跡（熊谷和彦さん宅付近の高速道）、白幡林遺跡（八幡アイスアリーナ付近）、上好地遺跡（好地上口の東北資材工業付近）が展示され、その内3分の2が大瀬川に関わる遺跡であった。大瀬川の遺跡は、これまで石鳥谷町歴史資料館や博物館などで個単位の展示はあったがこれほど多くの展示は初めてと思われる。

大瀬川には他にも有名な田屋遺跡があるが、今回は対象外であった。多くの展示物のうち一部を紹介する。



大地渡遺跡 深鉢



大地渡遺跡 深鉢



大地渡遺跡 深鉢



大地渡遺跡 深鉢



大地渡遺跡 石皿



大地渡遺跡 甕 (かめ)



大地渡遺跡 石棒



大地渡遺跡 石匙



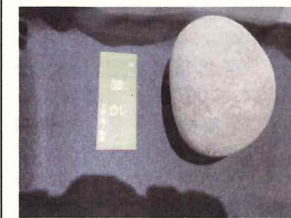
大瀬川館遺跡 鉄滓 (製鉄滓)



大瀬川館 須恵器



大瀬川館遺跡 石剣



大瀬川館遺跡 磨石



大瀬川館遺跡 石鍬



大瀬川館遺跡 一の郭

みつくら

令和 6年12月 15日 第424号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

幻燈紙芝居を制作し文化祭で上演

大瀬川に縁がある宮沢賢治の童話「やまなし」を幻燈紙芝居にするため、板垣正博さんが石鳥谷賢治の会から依頼されて紙芝居の台を制作した。制作した紙芝居の台は、11月28日付けの岩手日日新聞に詳しく紹介された。それによると「絵は広島県呉市に在住の切り絵作家・吉田路子さんによって、土佐染めの柔らかな色彩が特徴の和紙に切り絵で描かれ、それに合わせるため紙芝居の台に幻燈を取り付けた」とある。板垣さんは、通版で手に入れた紙芝居の台を一旦解体し、切り絵の後ろから幻燈を当てるように制作したもの。「発光ダイオードの光を鮮やかに反射するように考えました。いろいろ反射板を取り替えて試し、綺麗に写るようになりました」と板垣さんは話していた。

土性調査などで宮沢賢治が何回も大瀬川を訪れた時に、必ず金鑄神（金矢）のやまなしの下を通った。石鳥谷賢治の会では「賢治は県内の多くのやまなしを見たであろうが、記録に残っているのは大瀬川だけ」と検証している。

この幻燈紙芝居「やまなし」は、11月9日の大瀬川文化祭で初めて上演された。切り絵の16枚を24場面に使うので、読み手の菅原敬子さんの他に菅原慶子さんと菅原佳子さんも出演した。会場で鑑賞した方からは「幻燈の紙芝居を初めて見ました。とてもきれいでした」と好評であった。

振興センターで賢治葛丸祭

石鳥谷賢治の会主催の第29回賢治葛丸祭は、10月14日に32名が出席して大瀬川振興センターで開かれた。松村稔会長は「この大瀬川は、賢治さんとの関わりが多く、いろいろな作品が作られています。このひとときを楽しんで下さい」と挨拶した。続いて市長代理の長原智子賢治まちづくり課長補佐から「石鳥谷賢治の会さんは、地元に関連した三つの祭りを開催し、賢治先生を顕彰する活動を行っていることに敬意を表します」と祝辞を述べた。熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長からは「地元として地域おこしのためにも活動していただきたい」と祝辞があった。

催しの始めは春日流八幡鹿踊、続いての賢治さんへの手紙は町内5校から寄せられた手紙を会員が代読した。石鳥谷小6年の大川永馬さんの手紙は菅原富男さん、八幡小6年の氏薫朋花さんを高橋久さん、八重畑小6年の藤根央果さんを中村萬敬さん、石中2年の佐藤恋菜さんを板垣福子さんがそれぞれ代読した。最後は中村萬敬さんの音頭で精神歌を斉唱し閉幕した。

子供育成会が花壇の冬仕舞

大瀬川地区子供育成会（板垣勇司会長）は12月1日に運動公園北側にある花壇の植栽を片付けた。この花壇には5月26日に4種類の花を450本植えていた。当番制で水を掛けをしながら大切に管理を行った。一時期雨が降らない時もあり、親子3人で朝と夕方に水掛けする姿もあった。また今年は夏の好天の為か花の背丈が高く、花が遅くまで咲いていた。9月の中旬には花苗を育てたルンビニー苑の花工房サーラの方々も花壇の見学に訪れていた。

運動公園を長く彩った花壇の花も、いざ引き抜くとなればしっかりと根が張っていてかなりの力が入った。

中央長寿会が芋の子会

11月20日に大瀬川中央長寿会（菅原得之会長）では21名が参加し、振興センターで芋の子会が開かれた。昨年までは金矢温泉で行っていたが、今回は気軽に参加してほしいと地元で行う企画をした。会費は千円とし芋の子汁は外注した。また食器類も使い捨ての物を使用してなるべく手間を省いた。開会に先立ち、平成18年の敬老祭のDVDを10分位鑑賞した。内容は八区3班が敬老祭の出し物の練習風景と敬老祭で披露した場面だった。映っている人はみんな若くて、この人は誰だなどと懐かしい想いに浸っていた。上映後芋の子会を開会して懇親会となり、久しぶりに会う人とも話が弾んだ。芋の子汁はお替わりする人が多く二つの鍋はほとんどたいたが、後片付けをして会場を出るとまだ外は明るかった。

あじさいの会が民謡教室

11月21日にあじさいの会（板垣福子会長）は八重畑にお住いの川村はつ子さんを講師に、30名が参加して民謡教室を開いた。川村さんは岩手県民謡協会の会員で岩手ときめき会を主宰しており自宅でも民謡の指導をされている。当日は、川村さんが太鼓やCD、カセットテープ、歌詞など多く持参し、楽しい民謡教室となった。川村さんは最初にめでたい時に歌われる曲を歌い、続いて民謡の歴史も解説された。現在歌われている民謡は戦後に採譜された曲がほとんどだという。民謡の元々は、仕事の仕草をリズムを合わせたもので、次第に恋ごころを遠回しに歌うようになったものが多いと言っていた。

なんといっても面白かったのは、板垣由三さんと板垣征子さんの二人が、川村さんの歌に合わせて叩いた太鼓の音だった。最初はちょっとチグハグの感があったが、なんと、直ぐに「ドントコード」と上手に調子を合わせ、会場から歓声と大きな拍手が起こった。歌っていると、時間が経つのが早く、最後に渡された歌詞カードを手を持って「いしどりや小唄」を歌って民謡教室を閉めた。

年金友の会ポチャ大会で大瀬川チームが大活躍

JAいわて花巻石鳥谷地域年金受給者友の会主催のポチャ交流大会は11月27日に石鳥谷体育館で開催された。この交流会には大瀬川から3チームが出場した。7区からはくずまるチームとして菅原富男さん、菅原黎治さん、菅原敬子さん。8区からは中央チームとして板垣幸壽さん、熊谷レイ子さん、板垣公さん。9区からは9区チームとして菅原敬夫さん、菅原敦子さん、熊谷正男さん、熊谷幸夫さんが参加した。大瀬川の各チームはリーグ戦を勝ち上がり、遂に決勝トーナメントに進んで9区チームが第2位、くずまるチームが第3位、中央チームが第4位となり賞状と賞品を頂いた。

人事

石鳥谷町区長会副会長 山形圭子さん 4月から

第一老人クラブで研修会と収穫感謝祭

大瀬川第一老人クラブ（熊谷政男会長）では12月7日九区自治公民館で29名が参加し会員研修会と収穫感謝祭を行った。

第1部は石鳥谷交番の佐々木千加子巡査部長から「高齢者の犯罪防止対策について」の研修であった。最近が高齢者を狙ったオレオレ詐欺や贈り付け詐欺など様々に手口を変えた犯罪が増えている。佐々木さんは、電話を使用した詐欺の実例を挙げて「絶対に、知らない番号の電話には出ない」「着きの番号の電話は国際電話詐欺」「留守電やFAXにする事で被害を防ぐ事が出来ます」と強調された。また同行した大瀬川担当の千葉さんがマスクを外して「私の顔を覚えてください」と自己紹介があった。詐欺の手口を研修した会員研修会は短時間ではあったが有意義な勉強会となった。

第2部ではアトラクションで「トミー」こと富澤惣一さんのマジックショー。次々と色んな手品を繰り出して会場からは「お～」と歓声と拍手が起きた。参加者も前に出てトランプを使った手品にも協力した。途中、頭の体操でクイズや間違い探しをして脳ミソを使った。またストローを2本使った手品では参加者全員がトミーに言われた通りに折ったが上手に行った人や失敗した人もあり楽しい時間を過ごした。その後は昼食会となり、暫くぶりにアルコールも出て話が弾んでいた。

編集の恵から

運動公園の銀杏が今年は異常である。沢山の実を付けた枝が10月初旬に幹の半分位の所から折れた。実の重さに耐えきれなかったのか、病気によるものか原因は不明だが、この枝には非常に沢山の実が付いていた。12月10日現在も2割程の実が残っている。去年と今年は葉と実を軽トラで搬出した。ちなみに銀杏の実の数は令和3年は例年並みで、令和4年は例年の3割くらいで非常に少なかった。令和5年は実が大きく例年と同じ位であった。今年の実は小さめだが数が非常に多い。異常気象も関係しているかもしれない。寿命が近づくと子孫を残す為に実を多くつけるとも聞くが・・・